



# 10年後の 佐渡を 考える

市では「佐渡市将来ビジョン」を現在策定中です。

「将来ビジョン」とは、佐渡市が今後の10年先の姿をどのように見据えて進むべきか、その指針となるものです。このたび中間段階として一定の取りまとめを行いました。今後、タウンミーティングなどで市民の皆さんのご意見をおうかがいし、年内に最終取りまとめを行います。

佐渡市将来ビジョンを策定中です

市役所 企画振興課 ☎63-4152  
財政課 ☎63-3114



佐渡市将来ビジョン策定本部

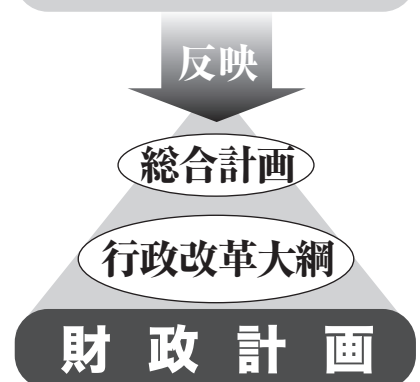
## 佐渡市の家計は苦しいの？ ——現在は大丈夫です

収入に占める地方債（借金）等の返済の割合を示したものを実質公債費比率といい、自治体の財政状況を知る指標のひとつです。  
実質公債費比率は、平成20年度決算では県内20市平均が17.3%のところ、佐渡市は16.7%の9番目となっていて、健全な状態にあります。  
一方、国から交付される地方交付税は、佐渡市が自由に使えるお金で、佐渡市の収入の約半分を占める大きな財源で、その額は約220億円となっています。しかし、この地方交付税は、合併特例期間（H16～H25）終了後5年間（H26～H30）で段階的に減少して、平成31年度には合併の優遇措置がなくなり、約145億円となる大幅減が

### 将来ビジョンには大きな2つの柱

1. 10年先の財政を見込んだ支出と収入の改革
2. 佐渡市の経済が活性化するための成長戦略

### 佐渡市将来ビジョン



見込まれます。  
そこで支出と収入を見直し、予算規模を縮小していく必要があります。

#### ① 支出と収入の見直し

平成31年度までの歳出・歳入の改革

#### 第1段階【合併から現在】

∵平成16年度～平成21年度  
佐渡市が誕生した平成16年度の当初予算は534億9千万円でしたが、人件費や旅費、消耗品などの消費的経費を削減したり、道路事業などの公共事業費を見直したりすることで、6年間で約127億円削減しました。

#### 第2段階【合併特例期間】

∵平成22年度～平成25年度  
歳入では自主財源の確保を行い、歳出では行政のスリム化と優先度を明確にします。

①歳入での見直し 市税徴収率の向上、滞納対策の徹底・保育料等の基準の見直し、遊休地等の売却や貸付